

## 錨山（いかりやま）と市章山（ししょうざん）

神戸港地方口一里山



錨山は1903（明治36）年の観艦式を記念したもの。明治36年に神戸港外で行なわれた観艦式で明治天皇は61隻の艦船を親閲された。当時は日露戦争の前年ともあって、国民の戦意が高揚しており、神戸市民もこの観艦式に大きな関心を寄せていた。そこで、市内の小学生の代表数百人が諏訪山の北東の山の南斜面に錨形にならび、日の丸を振って天皇をお迎えしたのである。その錨形に並んだ跡に1907（明治40）年に松を植樹して「錨山」と名付けられた。1981（昭和56）年からは風力・太陽光発電で電飾（2004<平成16>年に設備をリニューアル）を行なっている。

市章山は錨山の北隣にある山で、1907（明治40）年に築港起工式記念に市章をかたどって植樹したもの。なお、神戸市の市章は「カウベ」の「カ」と港形にちなんで1907（明治40）年に制定された。

1989（平成元）年の市制百年を記念して同年の秋から市商山の東約800mの堂徳山に「K OBE100」「北前船正面」「北前船側面」の3種類が1ヶ所で20分おきに入れ代わるという電飾も加わるようになった。これで中央区の六甲山の南斜面には3ヶ所・5種類の電飾が灯っていることになる。また、錨山には神戸市民が喜びや悲しみを共にしたい日（祝祭日・ルミナリエ・神戸まつり・震災の日・外航客船入港日など）にマリンプルーに変わる。

夜になれば、錨と市章の電飾が山に灯り、港町神戸をいっそう引立ててくれる。とくにハーバーランドの高浜岸壁からメリケンパークのイルミネーションを前にして見る両灯りの眺めは格別である。

場所：神戸市中央区神戸港地方

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著